

刈谷市 歴史 博物館 NEWS

Kariya city Museum of History NEWS

Vol.12

2023.04

CONTENTS

Next Exhibition [次回展示] -----	1
Description [解説] -----	2
Report [報告] -----	3
Information [ご案内] -----	4

Next Exhibition 次回展示

企画展「北斎漫画—驚異の眼・驚異の筆—」

有料展

開催日 2023年4月22日(土)～6月4日(日)

江戸文化を代表する浮世絵師・葛飾北斎(1760～1849)による傑作として『北斎漫画』があります。『北斎漫画』とは、北斎がありとあらゆるものを描いた絵手本であり、全15編を数える大作です。北斎の没後も刊行され、まさに江戸時代のベストセラーと言えます。

本展では、世界一の質と量を誇る「浦上コレクション」より、摺りが早く保存状態の良い、厳選した約200点をご紹介します。自ら画狂人と称した北斎の世界をご堪能ください。



▲『北斎漫画十編』《奇術のいろいろ》(浦上コレクション)

※記載内容は予告なく変更することがあります。

試論：「葛飾北斎」とは？

「葛飾北斎」という呼び方

多くの人が「葛飾北斎」という言葉を聞いたことがあると思います。社会の教科書の江戸文化史（特に化政文化のあたり）や、美術の教科書にも掲載されていますし、昨今パスポートや新紙幣のデザインに組み込まれたことでもメディアに取り上げられました。多くの書籍に「葛飾北斎」と掲載されますし、そのものずばり「北斎」という名称の展覧会も開催されています。

しかし、今我々が彼の代表作だと信じてやまない《富嶽三十六景》の署名には「前北斎為一筆」とあります。これは「以前北斎と名乗っていた為一が描いた」という意味で使われています。ほかにも似たような画号に「北斎改为一筆」があります。つまり《富嶽三十六景》を生み出したとき、彼は正確に言えば「北斎」ではなかったのです。

ではなぜ、我々は彼を「葛飾北斎」と呼ぶのでしょうか。彼自身も画号に「前北斎」「北斎改」と付け足しているのでしょうか。

画号と画業の変遷

彼は画号を何度も変えており、その数は大まかに6つ、細かく数えると30ほどになります。人気絵師でありながら裕福な暮らしはせず、金に困ると弟子に画号を売っていたという話も残っています。

ここで、画号「北斎」までの画業変遷を、ごく簡単に追ってみましょう。

彼はまず、当時の浮世絵界で一世を風靡した勝川春章に弟子入りし、「春朗」の画号を用いました。15年ほどの習作期を経て勝川派を離脱したあと、彼は琳派の系譜に連なる俵屋の一派に入って「宗理」を名乗り、狂歌のグループが作る多色の豪華な摺物や、富士額・瓜実顔・楚々とした体躯が特徴の美人画を多く描きました。このころ「北斎宗理」という画号も用いており、「北斎」を使い始めていたことがわかります。その後俵屋を離れて「宗理改北斎」とし、いよいよ「北斎」を主な画号として活動していきます。

文化2年（1805）、46歳のときに「葛飾北斎」を名乗り始めます。この「葛飾」という画姓について、飯島虚心が著した『葛飾北斎伝』には、次のように述べられています。

本所の地、もと下総国葛飾郡に属せり。北斎本所に生る、故に卑下して葛飾領の北斎、即ち百姓の北斎と自称せしを、後には、氏の如くなりて、人も我も称せしなり。

つまり江戸の本所（現在の東京都墨田区）に生まれ、そこが葛飾郡であったので「葛飾」と名乗っていたということがわかります。そしてこのとき、画号と同時に画風も転換します。たおやかで線の細い美人画から、豪快で迫力のある読本挿絵へ、制作の主な形態も一枚ものの摺物から冊子体の版本へと移行しました。この読本挿絵というジャンルでは、曲亭馬琴の『新編水滸画伝』『椿説弓張月』などで大変な人気を博したようです。彼は生涯で200冊近い読本に関わっていたことから、この「葛飾北斎」期の読本挿絵は世間一般にも、彼の画業としても極めて大きな仕事であったことがうかがえます。

文化7年（1810）頃に「北斎」の画号を改め「戴斗」を用いはじめた彼は、絵手本の制作に着手します。それと並行して制作されたのが『北斎漫画』初編です。画号を変えたにも関わらず、書名にも初版本の奥付にも「北斎」「葛飾北斎」の画号が使われています。2編以降も「北斎改葛飾戴斗」としています。前述の読本挿絵で名声を得、世間に広く知られたためでしょうか、彼は画号が変わっても「北斎」を晩年まで長く使い続けました。

「葛飾北斎」とは？

彼は、20歳でデビューし、90歳で没するまで、現役の絵師でした。実に70年という絵師人生の中で、長ければ50年ほど「北斎」の画号を使っていたこととなります。つまり「葛飾北斎」とは「葛飾郡に住む北斎」であり、その画号で有名になったので、彼の主な呼称として定着したと考えられます。

そのような栄えある画号を冠した『北斎漫画』は、彼の代名詞的な作品なのかもしれません。

（当館学芸員 永井優香子）

【主要参考文献】

- 飯島虚心『葛飾北斎伝』（鈴木重三／校注、1999、岩波書店）
- 浦上満『北斎漫画入門』（2017、文藝春秋）
- 永田生慈『葛飾北斎の本懐』（2017、KADOKAWA）

REPORT 報告

企画展「TSUNAGU—甦るモノたち—」 2022年7月16日(土)～9月4日(日)



▲ イベント「古文書修復体験」



▲ イベント「拓本しおりをつくらう！」

今回の展覧会では、数百年の時を経て伝わっている作品の「保存」と「修復」について、実際の修復の様子や修復後の作品を紹介しました。博物館では、必要に応じて作品の修復作業を行っています。作品の装丁や裏打ちに使用される和紙を定期的に取り換え、メンテナンスをすることで、その作品を長く伝えるためです。これまで伝わってきた作品を我々のみで消費してしまうのではなく、後世の人々へと「つなぐ」ことは大変重要ではありますが、あまり表立って説明する機会がありませんでした。本企画展では、博物館の骨組みの1つである「保存」「修復」について、ご来館の皆様幅広くご紹介できたと感じています。また期間中には、愛知県立芸術大学の岩永てるみ准教授をお迎えした講演会や、文化財保存修復研究所のご協力で古文書の修復を実際に体験するイベントを開催し、作品修復について、より身近に感じていただけたかと思います。

本展にご出品・ご協力いただいた方々、ご来場の皆様に改めてお礼申し上げます。

(当館学芸員 永井優香子)

企画展「深溝松平家展—家忠・忠利・忠房と刈谷—」 2022年10月8日(土)～11月20日(日)

本展では深溝松平家4代家忠、5代忠利、6代忠房がそれぞれ刈谷やこの地域所縁の水野家と関わりが深いことから、刈谷や水野家との繋がりに着目して展示を構成しました。家忠の自筆日記である[重要文化財]「家忠日記」(駒澤大学図書館蔵)や、忠利の「忠利公御日記写」(肥前島原松平文庫蔵)から、親類である水野家と日常から深く付き合い合ってきたことがわかりました。また忠房の刈谷藩主在任期に作成と考えられる「某城之図」や「参州荊谷領之図」(本光寺常盤歴史資料館蔵)から、当時本丸御殿が存在していたことや衣浦で白魚の取れる様子が見えてきました。関連イベントとして講演会「松平忠利と幕藩体制下の深溝松平家」(講師:神取龍生氏)と「徳川家康と深溝松平家」(講師:平野明夫氏)、参加型イベントとして深溝松平家の家紋・重扇にちなんだ「子ども向けギャラリートーク&マブリング扇子づくり」を開催したほか、「家忠日記」挿絵のミニパネル展も開催しました。

最後になりますが、本展にご協力いただいた方々にお礼申し上げ、報告いたします。

(当館学芸員 山下智也)



▲ スポット解説



▲ 講演会(講師:神取龍生氏)

INFORMATION ご案内

2023年度 企画展スケジュール

4月22日(土)～6月4日(日)
「北斎漫画－驚異の眼・驚異の筆－」

7月22日(土)～9月10日(日)
「井ヶ谷古窯展－いにしへの刈谷のものづくり－」

10月14日(土)～11月26日(日)
「姫たちの想い～家康を支えた水野家の女性たち～」



写真左：石根第5（IG-78）号窯出土資料（愛知県陶磁美術館蔵） 右：【愛知県指定】伝通院画像（楞嚴寺蔵）

刈谷城御城印 販売中

刈谷城の御城印が登場しました。文字は江戸時代の「刈谷城絵図（刈谷市中央図書館蔵）」から引用しています。

定価：300円

販売場所：当館受付

刈谷駅前観光案内所



博物館実習について

学芸員資格取得に必要な博物館実習を、今年度より開催します。

日時：8月16日(土)～22日(火) (土・日除く5日間)

午前9時30分～午後4時

定員：5名（事前応募制）

締切：4月30日(日)

▶ 詳細は当館ホームページをご確認ください。

カレンダー

4	日	月	火	水	木	金	土	5	日	月	火	水	木	金	土
							1		1	2	3	4	5	6	
2	3	4	5	6	7	8		7	8	9	10	11	12	13	
9	10	11	12	13	14	15		14	15	16	17	18	19	20	
16	17	18	19	20	21	22		21	22	23	24	25	26	27	
23	24	25	26	27	28	29		28	29	30	31				
30															
6	日	月	火	水	木	金	土	7	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3							1	
4	5	6	7	8	9	10		2	3	4	5	6	7	8	
11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	15	
18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22	
25	26	27	28	29	30			23	24	25	26	27	28	29	
								30	31						

- 北斎漫画－驚異の眼・驚異の筆－
- 井ヶ谷古窯展－いにしへの刈谷のものづくり－
- 休館日

利用案内

開館時間：午前9時～午後5時

観覧料：歴史ひろば・お祭りひろば…無料

企画展示室…企画展ごとに異なります

交通案内

鉄道 JR 東海道本線 逢妻駅 から徒歩約15分
名鉄三河線 刈谷駅

バス 刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」
東刈谷線・逢妻線
「刈谷市体育館」下車 徒歩約3分

車 伊勢湾岸自動車道
名古屋南ICまたは豊田南ICから
約20分

※ 記載内容等は変更することがあります。詳細・最新情報は当館ホームページ、または Twitter をご確認ください。
※ 当館の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の詳細についてはホームページをご確認ください。

編集・発行

刈谷市歴史博物館

KARIYA city Museum of History

〒448-0838 愛知県刈谷市逢妻町4丁目25番地1

TEL.0566-63-6100 FAX.0566-63-6108

URL : <https://www.city.kariya.lg.jp/rekihaku/>



◀ 当館ホームページ
企画展・イベントの詳細や、博物館NEWSのバックナンバーを掲載しています。



◀ 公式 Twitter
最新の情報やイベントの告知など、時々つぶやいています。

※ QR コードはデンソーウェブの登録商標です。